

## 2025 年度（2026 年 3 月期）中間期決算説明会質疑応答（要旨）

日時：2025 年 11 月 10 日（月） 13:00－14:00

### 【中間期業績について】

Q. 第 2 四半期の計測機器事業・中国の受注が前年比マイナスだった背景は？

A. 一部の官需で入札の遅延があったため。下期は税関・食品検査などの公的検査需要が拡大すると見込み、回復を期待している。

Q. 第 2 四半期の医用機器事業の営業利益率が大きく向上している背景は？

A. サービス関連売り上げの増加と、新製品売上が伸長したことによる。

### 【26.3 期通期業績について】

Q. 26.3 期通期業績予想に含まれている関税の間接影響について、算出方法と蓋然性を伺いたい。

A. 9 月末に各地の営業拠点の報告から、関税による市況悪化が生じそうな業界や顧客を想定して影響額を見積もった。

Q. 計測機器事業の業績予想において、上半期に比べて下半期の営業利益率が向上する見込みになっているのはなぜか？

A. 新製品にけん引されてトップラインが伸びると見込んでいることによる。

Q. 26.3 期通期の計測/北米の業績見込みについて、10-13%という伸び率が示されている背景は？

A. 特に第 2 四半期に北米で開発した多検体処理対応の「Nexera QX システム」が臨床市場向けで大きく貢献したこと、バッテリー・エネルギー関連投資が堅調なこと、オイル・ガス分野でも投資再開の兆しが見られることによる。

### 【計測機器事業/事業環境見通しについて】

Q. 26.3 期下期から 27.3 期にかけての計測機器事業の外部環境の見通しは？

A. 北米、欧州、中国、アジアなどの様々な産業において研究開発投資が進むことに期待している。投資の動く市場で事業展開をしていきたい。

Q. 27.3 期の計測/中国の成長見通しは？

A. 民需全体が回復してくるのは難しいと思っているが、製薬、電池、半導体といった特定の分野では投資が動くことを期待している。全体として横ばいからプラスを想定する。

Q. 26.3 期下期から 27.3 期にかけての計測/インドの成長見通しは？

A. 短期的には一部の製薬企業で投資の後ろ倒しも見られるが、中長期的に成長を続けるとの見立て

に変化はない。

Q. 今後グローバルにバイオ医薬向けの投資が進むと考えられるが、この分野での成長可能性を知りたい。

A. 製品開発などの取り組みにおいて競合他社より後発であることは事実。現在この分野において北米 R&D センターなどで共同開発・共同研究を進めており、今後 2 ～ 3 年のうちに成果を具体化できると考えている。

#### 【計測機器事業/新製品について】

Q. 新製品の売上高比率の実績や目標値は開示されているか。

A. 当社では新製品売上高比率 30%を目標としているが計測の実績はこれに届いていない。ここでは発売後 3 年間の製品を新製品と定義している。なお、3 年目以降は発売時に引き上げた価格のまま既存製品として売り上げていくことから、過去 3 年の新製品売上構成比が 30%に到達しなくても全体の利益率は向上していく。

Q. 北米 R&D センターの開発テーマの売上寄与について、1 テーマあたりの売上規模や四半期ごとの増収率のブレ幅を知りたい。

A. テーマごとに売上目標の大小が様々あるうえ、北米 R&D センターの売上増減が計測/北米の売上高増減の最大要因ではないため、直接的な回答は難しい。

以上